

952号

THE
PUBLIC
RELATIONS

るもい

広 報

7月号の主な目次

- ◆ まちは生きている～都市計画～…2～3P
- ◆ 保険金はなぜこなかつた…………… 4
- ◆ 第4回青年学級研究集会…………… 4
- ◆ 明るい暮らし…………… 5
- ◆ あすへの鼓動…①…………… 6
- ◆ 国保巡回診療と保健婦の巡回訪問… 6
- ◆ 夏を飾つた商工港祭り…………… 7
- ◆ おしらせ…………… 8



読んだらと毎号とじて保存してください
いつか役に立つことがあります。

“ワァーあまいヤ”と大喜び

流行期を前に効きめのはやい生ワクチンを

○：小児マヒ対策の一つとして、生ワクチンの投与が、八月一日から六日まで全市的に行われました。
 ＊生ワクチン＊は、いままで市が進めてきたソークワクチンの注射とは別に、小学校三年生以下、とし三月三十一日まで生まれたこどもの希望者に行われたものです。

○：なにしろ、生ワクチンは、半月から一カ月後には小児マヒの免疫性ができるというだけに流行期を迎え、どの会場もこどもをつれたお母さんたちでいっぱい。

○：三才以上のこどもにはボンボン型を、それ以下のこどもにはシロップ型のを飲ませました。が、々あまくて、キャンデーみたいだと、母親の心配顔をよそにこどもたちは大喜び。

○：はじめに心配されたように驚いてはきだすこどもも少なくスムーズに進み、熱の高いこどもなどだけが会場にいる医師の診断を受けて、後日生ワクチンを飲ませることになりました。

なお、こんどの投与を受けたこどもたちは、八月二十一日、二十二日の二日間、午前九時半から午後五時まで、留萌保健所で行われました。

写真Ⅱおつかかなビツクリのこどもも、あまい味に思わずニッコリ。